



平成 26 年 6 月 14 日

各 位

会社名 株式会社 マルマエ
代表者名 代表取締役社長 前田 俊一
(コード番号: 6264 東証マザーズ)
問合せ先 取締役管理部長 藤山 敏久
(TEL. 0996-64-2900)

平成 26 年 5 月度 月次受注残高についてのお知らせ

当社は、投資家をはじめとするステークホルダーの方々に、より正確に当社を理解していただくために、自社情報のタイムリー・ディスクローチャーを推進しておりますが、この一環として、下記のとおり当期平成 26 年 5 月度月次受注残高情報を開示いたします。

記

1. 月次受注残高 (百万円未満切捨て)

| 区分 | 受注残高 | 割合 | 対前月増減率 | 対前年同月増減率 |
|---------|------|--------|--------|----------|
| F P D分野 | 58 | 31.2% | 23.2% | 13.0% |
| 半導体分野 | 84 | 45.3% | 5.4% | 77.7% |
| その他分野 | 43 | 23.5% | 105.1% | — |
| 合計 | 186 | 100.0% | 25.4% | 84.4% |

2. 月次受注残高の推移 (百万円未満切捨て)

| 区分 | H25.6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 |
|---------|--------|-----|-----|-----|-----|-----|
| F P D分野 | 49 | 56 | 48 | 52 | 72 | 68 |
| 半導体分野 | 46 | 45 | 53 | 53 | 59 | 64 |
| その他 | 0 | 0 | 0 | 4 | 29 | 64 |
| 合計 | 96 | 102 | 101 | 109 | 161 | 197 |

| 区分 | 12月 | H26.1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 |
|---------|-----|--------|-----|-----|-----|-----|
| F P D分野 | 62 | 39 | 8 | 49 | 47 | 58 |
| 半導体分野 | 63 | 67 | 72 | 70 | 80 | 84 |
| その他 | 121 | 219 | 191 | 61 | 21 | 43 |
| 合計 | 248 | 325 | 272 | 181 | 149 | 186 |

3. 月次受注残高の概況

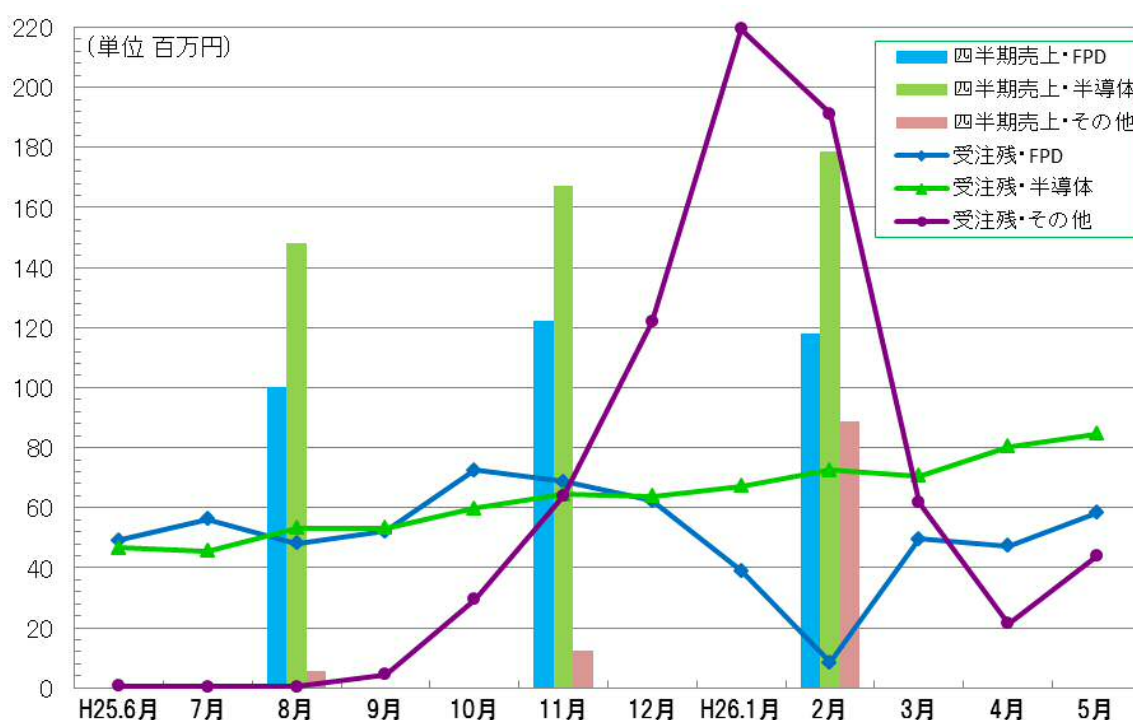
平成 26 年 5 月末の受注残高は、FPD 分野においては、受注および出荷検収が本格的な回復には至らずも堅調に推移し、対前月増減率で 23.2%増、対前年同月増減率では 13.0%増の 58 百万円となりました。半導体分野においては、受注および出荷検収ともに好調を維持し、対前月増減率で 5.4%増、対前年同月増減率では 77.7%増の 84 百万円となりました。一方、その他分野においては、小規模ながらもリピート受注を獲得したことにより対前月増減率で 105.1%増の 43 百万円となりました。これらの結果、平成 26 年 5 月末の受注残高は、対前月増減率 25.4%増、対前年同月増減率 84.4%増の 186 百万円となりました。

今後の見通しといたしましては、FPD 分野では、国内外における中小型パネル製造装置の設備計画が停滞しており、本格的な拡大は来期になる見通しです。また、半導体分野では、市場環境は踊り場の状況ながらも受注品種の増加傾向が続いていることから、受注高および売上高の増加は継続する見込みです。その他分野においては、小規模ながらも一定のリピート受注を継続的に確保できる見通しを持っております。

全般的には、消費税の駆け込み需要による需要増は鎮静化しながらも、概ね好調な市場環境が続くと想定しております。このような環境の中で、社内生産性の改善と協力企業との取引拡大による生産能力の拡大を進め、更に受注拡大を目指します。

以 上

(参考：分野別 過去一年間の四半期売上高と月次受注残高の推移)



注 1. 上記受注残高の数値は、速報値であるため、翌月以降に修正される可能性があります。また、監査法人による会計監査を受けておりませんので、本決算の数値とは差異が発生する可能性があります。

2. 当社の受注残数値は、受注別に長短さまざまなリードタイムを持つことから、売上高と直接関連するものではありません。リードタイムの長い案件が増えると受注残が多くなり、リードタイムが短い当社月間生産能力範囲内の受注が増えると受注残が減る傾向となっております。